

ムイヌッディーン・アキール博士文庫
アブル・アアラー・マウドゥーディー関連書籍に関して

篠置 理子*

Publications Related to Saiyid Abū al-A‘lā Maudūdī in Aqeel Collection:
An Overview and Potential Perspectives

SASAOKI Noriko

This is a report on 126 books related to Saiyid Abū al-A‘lā Maudūdī (1903–79) included in the Aqeel Collection, a collection of more than 20,000 books contributed to KIAS by Dr. Mu‘īn al-Dīn Aqeel, a former professor of the Department of Urdu of Karachi University, Pakistan. Maudūdī, one of the most well-known ideologues in the stream of Islamic Revivalism in the modern Muslim world, founded Jamā‘at-e Islāmī (JI), one of the largest Islamic parties in South Asia, in Lahore in 1941. His literary works, originally written in Urdu and translated into nearly 50 languages, have been in circulation not only in Pakistan and other South Asian countries but also in the Middle East, West Asia, and Southeast Asia, etc., delivering some key concepts and inspirations for the Islamic movements in those areas. This report overviews the total range of books mentioned above, dividing them into (1) Maudūdī’s works, (2) publications on Maudūdī and JI, and (3) others. It aims to point out characteristics of the composition of books in each category and consider their potential contributions to future research in the light of some notable features seen in and around the publication process of Maudūdī’s works.

One of the significant features of the publication process of Maudūdī’s works is the continuous growth of the number of publications that is resourced from an enormous amount of texts left by him. Maudūdī, who started his literary career in the late 1910’s as a Muslim journalist with a keen eye on social issues in British India, wrote a considerable number of journal articles throughout his life, represented by nearly 900 titles of articles published through *Tarjumān al-Qur’ān*, a monthly journal that he produced himself. From those accumulated journal articles nearly 300 publications have been printed, at whose core are about 50 books edited by Maudūdī himself, which are complimented by more than 100 booklets and about 110 books edited by his followers. In some of those publications, the texts have experienced remarkable revisions, additions and deletions through their long-term circulation, increasing the importance of their old editions. Besides, it is also notable that there were many publications written by critics or supporters of Maudūdī to argue the legitimacy of the logic in his works, which should also provide important perspectives in the study of Maudūdī’s thoughts and influence.

The 126 books dealt with in this report include some old rare editions of prominent works of Maudūdī, as well as many booklets, books edited by his followers and works of his critics and defenders. Many of them have never been in the possession of Japanese libraries before. Given the balanced composition of these books, and considering the long-term and broad circulation of Maudūdī’s works in Islamic world, the Aqeel Collection is expected not only to provide helpful resources for research on Maudūdī’s works, but also to add new potentialities in the future of Islamic studies in Japan.

* 大阪大学 言語文化研究科

I. はじめに

本報告は、このたびイスラーム地域研究京都大学拠点に「アキール文庫」として収蔵された、ムイースッディーン・アキール博士の2万冊を超える蔵書の中から、イスラーム思想家、サイイド・アブル・アラー・マウドゥーディー (Saiyid Abū al-A'lā Maudūdī, 1903–79) に関連する書籍について、それらの構成の特質をまとめ、今後の研究における活用の可能性を示唆するものである¹⁾。

マウドゥーディーは、1941年にラーホールにおいて結成されたイスラーム復興運動団体で、現在でも南アジアの代表的イスラーム政党として活動するジャマーアテ・イスラーミー (Jamā'at-e Islāmī、「イスラーム党」の意、以下JI)の創設者として知られる人物である。また、マウドゥーディーは、イスラーム復興に関する多数の作品を残した著作家としても知られる。彼の著作は、パキスタン国内で現在まで継続的に流通しているだけでなく、これまでに50近くの言語に翻訳されており、世界各地のイスラーム復興の潮流に少なからぬ影響を与えてきたとされる。彼は元々自ら発行するウルドゥー語月刊誌『クルアーンの解釈者 (Tarjumān al-Qur'ān, 1933–)』を通じて大量の論稿を執筆したが、それらの論稿が様々な編集によって単行本として出版されてきている。また、マウドゥーディーやJIはパキスタン政治史における様々な宗教的論争の論客としても度々注目を集めてきたため、伝記や研究書、批判書等の関連書籍も数多く出版されている。アキール文庫にも、マウドゥーディーの著作や関連書籍が数多く含まれており、本報告は、それらの大まかな輪郭の把握と提示を目的としたものである。

報告の内容は、2012年8月に実施された、カラーチーのアキール博士ご自宅での蔵書の調査によって得られた記録に基づいている。この調査において筆者は、マウドゥーディー関連の書籍として、計122点の書籍の表紙等を撮影し、それらに関する基本的情報を収集した。本報告では、まず、「II. アキール文庫マウドゥーディー関連書籍」において、アキール文庫におけるそれらのマウドゥーディー関連書籍の位置づけ、および構成について概説する。次に、「III. 特質とその例」では、「(1) マウドゥーディーの著作」、「(2) マウドゥーディーおよびJIについての書籍」、「(3) その他」という3つの区分の下に、それぞれに該当する書籍群の特質について実例とともに考察する。最後に、これらの考察に基づき、今後のイスラーム研究におけるアキール文庫マウドゥーディー関連書籍の活用の可能性について言及する。

II. アキール文庫マウドゥーディー関連書籍 —報告の対象—

まず、本報告がマウドゥーディー関連書籍として取り扱う計122点の書籍について、アキール文庫全体におけるそれらの位置づけ、およびそれらの大まかな構成を確認しておきたい。アキール博士ご自宅では、上述の調査でそれぞれA, B, C, D, Eの部屋番号によって識別した5つの部屋に蔵書が保管されていた。それぞれの部屋部屋では、アキール博士独自の分類・配置によって書籍が保管されており、例えば、執務室としてご使用であったAの部屋には、時代史、地域史等の歴史関連の書籍のほか、旅行記や地誌、イスラームに関連する様々な書籍が集められていた。このAの部屋にはマウドゥーディーに関連する書籍が集められた棚(調査用の棚番号A-1401, 1402)があり、今回の報告で扱う122点の書籍のうち、大多数はこの棚に保管されていた。その他の部屋においてもマウドゥーディーおよびJIに関連する書籍が確認されたが、今回の調査では時間の都合上、特に筆者の関心を引いた数点の希少書籍を除いて、A以外の部屋の書籍に関しては十分な情報を収集

1) 本報告の内容は基本的に、2012年12月15日に京都大学にて開かれた科学研究会「ウルドゥー語文献の出版・伝播—アキール文庫をめぐる—」において筆者が行った発表「アキール文庫マウドゥーディー関連書籍に関して」の内容を下敷きに、補強可能な情報を追加したものである。

することができなかった。そのため、それらについては基本的にこの報告の対象外とし、ここでは、このたび扱う122点以外にも、Dの部屋の雑誌類の棚に収められていた月刊誌『クルアーンの解釈者』のバックナンバーなど、マウドゥーディーに関係する多くの書籍がアキール文庫には含まれていると言及するにとどめておくこととする。

先に述べたA-1401, 1402のマウドゥーディーの棚の向かって右隣りには、マウドゥーディーもその言論から影響を受けたといわれる思想家・政治家、アブル・カラーム・アザード (Abū al-Kalām Āzād, 1888–1958) に関連する書籍が集められていた (棚番号 A-1301, 1302)。また、下には南アジアにおけるイスラーム復興の思潮の始点と評価されるシャー・ワリーウッラー (Shāh Walī Allāh, 1703–62) の関連書籍が置かれた棚 (A-1403) が並んでいた。さらに、向かって左隣にはデーオバンド派ウラマーに関連する書籍が集められた棚 (A-1501)、および、ジャマルッディーン・アフガーニー (Jamāl al-Dīn al-Afghānī, 1838/9–97) に関連する書籍の棚 (A-1502) が並ぶ配置となっていた。こうした棚の配置は、アキール博士の長年にわたる書籍の収集と保管の過程で、様々な意識的・無意識的要因の中で定着したものであろうが、現在のパキスタンの一知識人の認識において、マウドゥーディーという人物が、これらの思想家や法学者たちの流れを汲む、あるいは彼らと何らかの共通性を共有する存在として把握されていることを示す、非常に興味深い配置であった²⁾。

今回の報告の対象とした122点のマウドゥーディー関連書籍には、マウドゥーディー自身の著作のみならず、彼やJIについての伝記や研究書、あるいは批判書などが幅広く含まれている。次節では、これらの書籍を「(1) マウドゥーディーの著作」、「(2) マウドゥーディー及びJIについての書籍」、「(3) その他」という3つの群に分類し、それぞれの分類に該当する書籍群の特質を実例とともに述べる。

III. 特質とその例

(1) マウドゥーディーの著作

アキール文庫におけるマウドゥーディー著作の一群について言及する前に、ここでまず、マウドゥーディーの著作とされる出版物とその出版過程の全体的特徴について概説しておきたい。元々ジャーナリストとして著作活動を開始したマウドゥーディーは、生涯にわたり、自ら発行する月刊誌『クルアーンの解釈者』を通じ、900近くの論稿を発表した[Zubairī 1985: 4–37]。マウドゥーディーの著作として出版される単行の書籍においても、そのほとんどは彼が同誌に寄稿した論文や演説記録から、重要と思われる主題に関連するものを選び集め、新たな説明や修正を加えて編集されたものである。また、マウドゥーディーの死後も支持者たちによって彼の執筆したテキストから編集した作品が現在まで数多く刊行されつづけているほか、個々の論稿や演説記録を単独で収めた小冊子も数多く出版されている。そのため、マウドゥーディーを著者として出版されている書籍群の全体的特徴として、第一に、そのタイトル数が非常に多いこと³⁾、第二に、タイトルの異なる書籍であっても重複するテキストを含むものが多いことがいえる。また、著作の中には、いく度かの改訂を経ながら出版され続けているものもあり、同じタイトルであっても版によって微妙に内容が異なるも

2) 個人コレクションであることに鑑み、京都大学にイスラーム収蔵される「アキール文庫」においても、アキール博士による分類は保持されることとなっている。

3) マウドゥーディーの執筆したテキストによって編成・出版されてきた書籍の数は、把握される限りでも300点近くに及ぶ。その内訳は、クルアーン・ハディース関連の作品が10点、マウドゥーディー自身によって編集された主要単行本が49点、個々の論稿等を収めた小冊子 (kitābca) が102点、書簡集が11点、支持者によって編集された書籍が111点であり、近年もJI系の研究機関・出版社を拠点として、彼のテキストの再編集・再出版が続けられている[Hāshimī 2006; 篠置 2013]。

のも見受けられる⁴⁾。マウドゥーディーの著作とされる出版物のこれらの全体的特徴をふまえていえるのは、それらの多様な出版物の中には、マウドゥーディー個人の思想の把握における一次資料としての価値を有さないものも数多いが、一方で、彼を取り巻く、あるいは彼から連なる思想的な取り組みの動態の把握において、多くの小冊子の存在や、支持者編集の作品におけるテキストの整理・体系化の過程もまた、非常に重要な資料となりうるということである。

今回の筆者による分類では、A-1401, 1402 の「アブル・アアラー・マウドゥーディー」の棚内の書籍を中心とする 122 点のマウドゥーディー関連書籍のうち、計 55 点の書籍をマウドゥーディー自身の著作として区分した。そのタイトル、性格、日本国内の図書館における所蔵状況は以下の表のとおりである。同表では、表中の 55 点のマウドゥーディー著作を、Hāshimī [1998; 2006] および篠置 [2013] の情報に従い、「A: マウドゥーディー自身の編集による主要単行本」、「B: 個々の論稿や演説記録を収めた小冊子」、「C: 支持者によって編集された書籍、書簡集、インタヴュー集」、「D: その他」の 4 種の性格に分類した (右より 2 番目の「性格」の欄)。また、右端の「所蔵状況」の欄では、CiNii Books によって把握可能な情報に基づき、これまで日本国内の図書館において未所蔵であった書籍に「未」の印を付した。

表1 分類 (1) マウドゥーディーの著作 (計 55 点) の該当書籍一覧

No	タイトル (ウルドゥー語翻字、日本語訳)	性格	所蔵状況
1	<i>Dīniyāt</i> 『宗教学』	A	
2	<i>Dīniyāt</i> 『宗教学』	A	
3	<i>Ek Ahamm Dīnī Tahrik</i> 『ある重要な宗教運動』	B	未
4	<i>Fitna-e Inkār-e Sunnat</i> 『スンナ否定の争乱』	B	未
5	<i>Ḥaqīqat-e Jihād</i> 『ジハードの真実』	B	未
6	<i>Hidāyāt</i> 『指導』	B	未
7	<i>Ḥuqūq-e Zaujāy</i> 『夫婦双方の権利』	A	
8	<i>Insān kā Ma'āshī Mas'ala aur us kā Islāmī Hall</i> 『人間の経済的問題とそのイスラーム的解決策』	B	未
9	<i>Islām aur Jadīd Ma'āshī Nazriyāt</i> 『イスラームと現代の経済諸理論』	A	
10	<i>Islām aur Jāhilīyat</i> 『イスラームと無明』	A	
11	<i>Islām aur Khānānī Manṣūba-bandī</i> 『イスラームと家族計画』	B	
12	<i>Islām aur Zabḥ-e Vilādāt</i> 『イスラームと産児制限』	A	
13	<i>Islām kā Akhlāqī Nuqta-e Naẓar</i> 『イスラームの道徳的観点』	B	未
14	<i>Islām kā Nazriya-e Siyāsī</i> 『イスラームの政治理論』	B	未
15	<i>Islāmī Dastūr kī Tadvīn</i> 『イスラーム憲法の編纂』	B	
16	<i>Islāmī Hukūmat kis Tarāḥ Qā'im hotī hai?</i> 『イスラーム政府はどのように構築されるか?』	B	
17	<i>Islāmī 'Ibādāt par Ek Tahqīqī Naẓar</i> 『イスラームの信仰実践についての実証的見解』	A	
18	<i>Islāmī Qānūn aur Pākistān meṃ us ke Nafẓ kī 'Amālī Tadābir</i> 『イスラーム法とそのパキスタンにおける実施の実践的方策』	B	未
19	<i>Islāmī Riyāsat</i> 『イスラーム国家』	A	
20	<i>Jamā'at-e Islāmī, us kā Maqṣad, Tārīkh aur Lā'ihā-e 'Amal</i> 『ジャマアテ・イスラミー：その目的、歴史と行動計画』	A	
21	<i>Khilāfat o Mulūkiyat</i> 『カリフ制と君主制』	A	

4) 典型的な例を挙げるとすれば、主要単行本の一つ『イスラーム国家 (*Islāmī Riyāsat*)』の場合、後半部分をパキスタンにおける憲法制定の過程の批評に割いた初版 [1962] と、それを排除し理論的な議論を増強した第二版 [1967] 以降では、収録内容が大きく異なっている [Hāshimī 1998; 篠置 2013: 75–76]。その他にも、世相や読者からの反響を反映して、論稿の追加・削除や部分的修正を経ながら再版され続けている著作が複数あり、そうした版による内容の違いはマウドゥーディーの著作の収集・研究のうえで軽視できない要素といえる。

No	タイトル(ウルドゥー語翻字、日本語訳)	性格	所蔵状況
22	<i>Khutbāt</i> 『演説集』	A	
23	<i>Khutūt-e Maudūdī</i> 『マウドゥーディーの手紙』	C	未
24	<i>Khutūt-e Maudūdī</i> 『マウドゥーディーの手紙』	C	未
25	<i>Maqām-e Šāhāba</i> 『教友の立場』	C	未
26	<i>Mas'ala-e Jabr o Qadar</i> 『宿命論の問題』	A	
27	<i>Mas'ala-e Jabr o Qadar</i> 『宿命論の問題』	A	
28	<i>Mas'ala-e Milkiyat-e Zamīn</i> 『土地所有権の問題』	A	
29	<i>Mas'ala-e Qurbānī</i> 『犠牲の問題』	B	未
30	<i>Maulānā Maudūdī ke Inṭarvyū</i> 『マウラーナー・マウドゥーディーのインタビュー』	C	未
31	<i>Musalmān Hukūmaton kā Ittiḥād</i> 『ムスリム政府間の団結』	C	未
32	<i>Musalmānon kā Māzī, Hāl aur Mustaqbil ke liye Lā'ihā-e 'Amal</i> 『ムスリムたちの過去、現在、そして未来のための行動方針』	C	未
33	<i>Namāz Be-aṣar kyūn ho gā?</i> 『礼拝はなぜその効果を失ってしまったか』	C	未
34	<i>Nashrī Taqrīreṅ</i> 『放送演説集』	A	
35	<i>Nashrī Taqrīreṅ</i> 『放送演説集』	A	
36	<i>Parda</i> 『バルダ』	A	
37	<i>Salāmatī kā Rāsta</i> 『平和への道』	B	
38	<i>Sarvar-e 'Ālam kā 'Aṣlī Kār-nāma</i> 『預言者の本当の功績』	B	未
39	<i>Shahādat-e Haqq</i> 『真理の証言』	B	
40	<i>Shahādat-e Haqq</i> 『真理の証言』	B	
41	<i>Silājiqa</i> 『セルジューク朝』	A	
42	<i>Tafhīm al-Qur'ān, Sūra al-Aḥzāb</i> 『クルアーン理解：部族連合章』	C	未
43	<i>Tafhīmāt, Ḥiṣṣa Avval</i> 『解説集』第1巻	A	
44	<i>Tafhīmāt, Ḥiṣṣa Davum</i> 『解説集』第2巻	A	
45	<i>Tafhīmāt, Ḥiṣṣa Sovim</i> 『解説集』第3巻	A	
46	<i>Tafhīmāt, Ḥiṣṣa Sovim</i> 『解説集』第3巻	A	
47	<i>Tafsīr-e Sūra al-Hujrāt</i> 『クルアーン「部屋章」の解釈』	C	未
48	<i>Tahrīk-e Islāmī Apne Liṭarecar ke Ā'īne meṅ</i> 『イスラーム運動：その文学の鏡に映して』	C	未
49	<i>Tahrīk-e Islāmī Ek Naẓar meṅ</i> 『イスラーム運動：一つの視野の中で』	C	未
50	<i>Tahrīk-e Islāmī kā Ā'īnda Lā'ihā-e 'Amal</i> 『イスラーム運動の今後の行動計画』	A	
51	<i>Tahrīk-e Islāmī kī Akhlāqī Bunyāden</i> 『イスラーム運動の道徳的基礎』	B	
52	<i>Tajdīd o Iḥyā-e Dīn</i> 『宗教の改革と再生』	A	
53	<i>Tanqīḥāt</i> 『照会集』	A	
54	<i>Tarjumān al-Qur'ān Inṭarvyū Nambar</i> 『クルアーンの解釈者：インタビュー号』	C	未
55	<i>5A Zaildār Pārḳ, Ḥiṣṣa Davum</i> 『ザイルダール公園 5-A』第2巻	C	未

表1の「性格」欄をみていえるのは、アキール文庫内のマウドゥーディーの著作にも、上で述べたような、マウドゥーディー自身によって編集され彼の主要著作と言える単行本から、個々の論稿を収めた小冊子、支持者によって編集された論集・書簡集・インタビュー集まで、様々な性格の作品が含まれているということである。マウドゥーディーの主要著作については、そのほとんどが日本国内の図書館において既に所蔵済みであったが、小冊子や論集・書簡集・インタビュー集には未所蔵のものが多かった。上に挙げた55冊のマウドゥーディーの著作の中をみただけでも、小冊子や支持者編集による論集・書簡集・インタビュー集を中心として、23点の国内図書館未所蔵の書籍が含まれている。また、アキール文庫に含まれるマウドゥーディーの主要著作には、現在では入

手困難な古い版のものもあり⁵⁾、史料価値を有しているといえる。このたびのアキール文庫の収蔵によって、マウドゥーディーの思想の形成過程やその言動の意図・背景が今後より細かに研究されていく上で、日本国内で参照可能な資料の幅が少なからず広がったといえる。

(2) マウドゥーディーおよび JI に関する書籍

アキール文庫の A-1401, 1402 の「アブル・アアラー・マウドゥーディー」の棚には、マウドゥーディー自身の著作とともに、マウドゥーディー、もしくは JI に関する書籍も収められていた。そのタイトルは以下のとおりである (表 2)。

表 2 分類 (2) マウドゥーディーおよび JI についての書籍 (計 57 点) の該当書籍一覧

No	タイトル (ウルドゥー語翻字)
1	<i>Ātish Fishān</i> 雑誌『アーティシュ・フィシャーン』(発行年月未確認)
2	<i>Fitna-e Maudūdīyat</i> 『マウドゥーディー派による内乱』
3	<i>Gham-e A'la</i> 『大いなる悲しみ』
4	<i>Haft-roza Zindagī</i> 週刊『ズィンダギー』1978 年 9 月号
5	<i>Haft-roza Zindagī</i> 週刊『ズィンダギー』1978 年 9 月号
6	<i>Haft-roza Zindagī</i> 週刊『ズィンダギー』1979 年 9 月号 ⁶⁾
7	<i>Haft-roza Zindagī</i> 週刊『ズィンダギー』1979 年 9 月号
8	<i>Haft-roza Band-bān</i> 週刊『バンドバーン』(発行年月未確認)
9	<i>Haft-roza Ta'bīr</i> 週刊『タアビール』1979 年 9 月号
10	<i>Hamāre Pyāre Maulānā</i> 『私たちの愛すべきマウラーナー』
11	<i>Inkishāfāt</i> 『諸事実の暴露』
12	<i>Iqbāl, Qā'id-e A'zam, Maudūdī aur Tahrik-e Pākistān</i> 『イクバル、カーイデ・アアザム、マウドゥーディーとパキスタン運動』
13	<i>Islāmī Inqilāb kā Harāvil-e Dasta, Jamā'at-e Islāmī, Pākistān</i> 『イスラーム革命の前衛隊: パキスタンのジャマアアテ・イスラーミー』
14	<i>Jā'iza</i> 『概説』
15	<i>Jamā'at-e Islāmī kā Nazriya-e Hadīṣ</i> 『ジャマアアテ・イスラーミーのハディース観』
16	<i>Jamā'at-e Islāmī aur 'Avāmī Huqūq kī Jad o Jahd</i> 『ジャマアアテ・イスラーミーと人民権のための取り組み』
17	<i>Jamā'at-e Islāmī par Ek Naẓar</i> 『ジャマアアテ・イスラーミーについての一考察』
18	<i>Jasārat</i> 新聞『ジャサーラト』
19	<i>Māh-nāma Da'vat</i> 月刊『ダアワト』
20	<i>Māh-nāma Saiyāra</i> 月刊『サイヤラ』1980 年 4 月号
21	<i>Manshūr-e Jamā'at-e Islāmī Pākistān</i> 『ジャマアアテ・イスラーミー・パキスタンの綱領』
22	<i>Mawlana Mawdūdī: an Introduction to his Life and Thought</i> 『マウラーナー・マウドゥーディー: その人生と思想の概説』(英語書籍)
23	<i>Maudūdī Mazhab</i> 『マウドゥーディー派』
24	<i>Maudūdīyat Ek 'Azāb</i> 『マウドゥーディー派: ひとつの災い』

5) 例えば、表 1 中 7 番に示した *Huqūq-e Zaujāyn* 『夫婦双方の権利』は、JI が、かつてイスラーム機関「ダール・イスラーム (Dār al-Islām)」の拠点が置かれたパンジャブ州パターンコートにその本部を置いていた 1943 年に刊行された、マウドゥーディーの代表著作のひとつである (「ダール・イスラーム」についての詳細は本章の「(3) その他」を参照)。アキール文庫に収められている同著作は、発行年不明であるものの、発行元として「ダール・イスラーム」の記載があり、JI の活動の変遷を裏付ける史料としても価値の高い、極めて初期の版であると考えられる。

6) マウドゥーディーは、1979 年 9 月 22 日、ニューヨーク、バッファローにて没したが、その直後から様々なウルドゥー語誌において、彼の死亡や功績に関する特集が組まれた。A-1401, 1402 に収められていた新聞・雑誌類も、その多くはマウドゥーディー死亡を受けて発行された特集号である。

No	タイトル (ウルドゥー語翻字)
25	<i>Maulānā Abū al-Kalām Āzād, Saiyid Abū al-A'īlā Maudūdī aur Mistrī Shāhib</i> 『マウラーナー・アブル・カラム・アーザード、サイイド・アブル・アアラー・マウドゥーディーとミストリー・サーヒブ』
26	<i>Maulānā Maudūdī</i> 『マウラーナー・マウドゥーディー』
27	<i>Maulana Maududi and the Islamic State</i> 『マウラーナー・マウドゥーディーとイスラーム国家』(英語書籍)
28	<i>Maulānā Madūdī Apnī aur Dūsroṅ ke Naẓar meṅ</i> 『マウラーナー・マウドゥーディー、自身と他者の視点から』
29	<i>Maulānā Maudūdī aur Jamā'at-e Islāmī kā Rukh-e Kirdār</i> 『ジャマアテ・イスラミーの役割の側面』
30	<i>Maulānā Maudūdī aur 'Ulamā-e Kirām</i> 『マウラーナー・マウドゥーディーとウラマー』
31	<i>Maulānā Maudūdī jin ke Pās Ap ke liye Ahamm Paighām hai</i> 『マウラーナー・マウドゥーディー、あなたに必要なメッセージをくれる人』
32	<i>Maulānā Maudūdī ke Sāth Merī Rafāqat kī Sarguzasht</i> 『マウラーナー・マウドゥーディーとの交友の記録』
33	<i>Maulānā Maudūdī ke Taṣavvurāt</i> 『マウラーナー・マウドゥーディーの諸観念』
34	<i>Maulānā Maudūdī kī Tahrik-e Islāmī</i> 『マウラーナー・マウドゥーディーのイスラーム運動』
35	<i>Maulānā Maudūdī par Jhūṭe Ilzāmāt aur Un ke Mudallil Javābāt</i> 『マウラーナー・マウドゥーディーへの濡れ衣と彼の論理的返答』
36	<i>Qandil</i> 雑誌『カンディール』
37	<i>Rūdād-e Jamā'at-e Islāmī, Ḥiṣṣa Avval</i> 『ジャマアテ・イスラミーの議事録』第1巻
38	<i>Rūdād-e Jamā'at-e Islāmī, Ḥiṣṣa Davum</i> 『ジャマアテ・イスラミーの議事録』第2巻
39	<i>Rūdād-e Jamā'at-e Islāmī, Ḥiṣṣa Sovim</i> 『ジャマアテ・イスラミーの議事録』第3巻
40	<i>Rūdād-e Jamā'at-e Islāmī, Ḥiṣṣa Cahārum</i> 『ジャマアテ・イスラミーの議事録』第4巻
41	<i>Rūdād-e Jamā'at-e Islāmī, Ḥiṣṣa Shashum</i> 『ジャマアテ・イスラミーの議事録』第6巻
42	<i>Saiyid Abū al-A'īlā Maudūdī</i> 『サイイド・アブル・アアラー・マウドゥーディー』
43	<i>Saiyid Abū al-A'īlā Maudūdī kā Aslūb-e Kitābat</i> 『サイイド・アブル・アアラー・マウドゥーディーの弁論の形式』
44	<i>Saiyid Abū al-A'īlā Maudūdī, Sivānīh, Afkār, Tahrik</i> 『サイイド・アブル・アアラー・マウドゥーディー:生涯・思想・運動』
45	<i>Saiyid Maudūdī kā 'Ahd</i> 『サイイド・マウドゥーディーの時代』
46	<i>Sayyed Maududi Faces the Death Sentence</i> 『サイイド・マウドゥーディー、死刑判決を受ける』(英語書籍)
47	<i>Tabṣira-e Maudūdī</i> 『マウドゥーディーの批評』
48	<i>Tafhīm al-Qur'ān par 'I'tirāzāt kī 'Ilmī Kamzoriyān</i> 『「クルアーン理解」への批判にみられる学識的弱点』
49	<i>Tahrik-e Islāmī, Ahdāf, Masā'il, Hall</i> 『イスラーム運動:諸規則、諸問題、解決策』
50	<i>Tārikh-e Jamā'at-e Islāmī</i> 『ジャマアテ・イスラミーの歴史』
51	<i>Tārikh-e 'Aẓīm Shakhṣiyatēn</i> 『偉人たちの歴史』
52	<i>Tarjuman al-Qur'ān</i> 月刊『クルアーンの解釈者』2003年10月号
53	<i>Tarjuman al-Qur'ān</i> 月刊『クルアーンの解釈者』2004年5月号
54	<i>Taṣānīf-e Maudūdī</i> 『マウドゥーディー著作目録』
55	<i>The Jamā'at-i-Islami of Pakistan</i> 『パキスタンのジャマアテ・イスラミー』(英語書籍)
56	<i>Vo Sūraj Ban Kar Ubhre ga</i> 『彼は陽になり昇るだろう』

上記56点の、マウドゥーディー、JIについての書籍の構成の特徴として、そこには、マウドゥーディーやJIの紹介・称揚のために書かれた作品のみならず、彼や同党の主張や運動についての批評・批判を目的とした作品が幅広く含まれていることがいえる。マウドゥーディーの言論の特質の一つは、従来の法学的解釈に必ずしもとらわれない彼の独自の解釈によってイスラームの教えの正当性を説き、それによって近代教育を受けた層の支持を得たことであったといえるが、そのためそのイスラーム解釈や社会的主張は、しばしばウラマー層や左派勢力とのあいだに論争を生じさせた。そうした論争については、これまで日本国内の図書館で所蔵されてきたマウドゥーディーの主要著作の中でもしばしば言及されており、そこからその一端を知ることが可能であったが、批判者・批評者の立場から書かれた作品は国内での所蔵数が少なく、中立的な視点から論争の

詳細を把握するには困難があったといえる。アキール文庫内のマウドゥーディー関連書籍の中には、*Fitna-e Maudūdīyat* (『マウドゥーディー派による内乱』、表中 2 番) や *Maudūdīyat Ek 'Azāb* (『マウドゥーディー派：ひとつの災い』、表中 24 番) など、批判者側によって書かれたであろう作品や、*Maulānā Maudūdī par Jhūṭe Ilzāmāt aur Un ke Mudallil Javābāt* (『マウラーナー・マウドゥーディーへの濡れ衣と彼の論理的返答』、表中 35 番) や *Tafhīm al-Qur'ān par I'tirāzāt kī 'Ilmī Kamzoriyān* (『「クルアーン理解」への批判にみられる学識的弱点』、表中 48 番) のように、マウドゥーディーの支持者によって彼の擁護のために書かれたであろう作品が両方含まれている。多様な政治的・宗教的思想を抱えたパキスタン社会の文脈におけるマウドゥーディーの思想の位置づけや影響力を読み解くうえで、これらの作品から有用な情報が得られることが期待される。

(3) その他

以上、2012 年の調査において著者が情報収集することのできたアキール文庫のマウドゥーディー関連書籍 122 点のなかから、マウドゥーディー自身の著作(分類(1))、および彼や JI に関する書籍(分類(2))についてその構成を概観した。以下は、それら二つの分類のどちらにも該当しないと判断された、あるいは調査で撮影した写真のみからでは判断が困難であった残りの書籍 11 点の一覧である。

表 3 分類(3) その他(計 11 点)の該当書籍一覧

No	タイトル (ウルドゥー語翻字、日本語訳)
1	<i>Ā'in</i> 雑誌『アーイーン』
2	<i>Ā'in</i> 雑誌『アーイーン』
3	<i>Dīn kī Khidmāt</i> 『宗教への貢献』
4	<i>Haqīqat-e Taqvā</i> 『敬虔さの真実』
5	<i>Jamā'at-e Islāmī kī Ek Na'ī Kitāb "Maīn bhī Hāzīr thā Vahān" par Muḥaṣṣal Tabṣira</i> 『ジャマアアテ・イスラーミーの新刊「私もそこにいた」についての詳細な批評』
6	<i>Kārkunon kī Bāhamī Ta'alluqāt</i> 『運動員の互いの関係』
7	<i>Khurram Murād, Hayāt o Khidmāt</i> 『フッラム・ムラード：人生と貢献』
8	<i>Rūdād-e Ijtimā' -e Dār al-Islām</i> 『ダールル・イスラームの集会の議事録』
9	<i>Tājdār-e Insāniyat</i> 『人間性の王』
10	<i>Taṣawwuf aur Ta'mīr-e Strāt</i> 『神秘主義と人格の構築』
11	<i>Yādgār Mujalla</i> 雑誌『ヤードガール』

上の 11 点の中で特に言及しておきたい書籍を挙げるとすれば、表中 8 番目に示した *Rūdād-e Ijtimā' -e Dār al-Islām* 『ダールル・イスラームの集会の議事録』である。「ダールル・イスラーム」とは、1937 年 12 月、詩人ムハンマド・イクバル (Muhammad Iqbal, 1877–1938) の構想の下に、パンジャーブ州パターンコートの運河局に勤める地主でムスリム連盟の黨員でもあったチョウドリー・ニヤーズ・アリー・ハーン (Caudhri Niyaz 'Alī Khan, 1880–1976) の出資によって、「イスラーム法学の近代的編纂」を目的として結成された研究機関である。マウドゥーディーもまたイクバルからの誘いを受け、1938 年 3 月から 1938 年 1 月までの期間、このダールル・イスラームの活動に参加したとされる [山根 2001: 182–185; Nasr: 35–39]。マウドゥーディーのダールル・イスラームからの決別は、彼と同機関の出資者ニヤーズ・アリー・ハーンとのあいだの政治的方向性の相違等を原因とするものであったが [Nasr 1996: 38]、その後もマウドゥーディーは同機関を JI の「運動の第一歩」と位置

づけており[加賀谷 1987: 69]、1943年から印パ分離独立までの一時期には、JIの本部をダールル・イスラームの地、パターンコートに置いた[Rūdād-e Jamā'at-e Islāmī Avval Davum 2011: 46-47]。上に挙げた *Rūdād-e Ijtimā'-e Dār al-Islām* 『ダールル・イスラームの集会の議事録』は、その出版年は定かではないが、出版元について「パターンコート、ダールル・イスラーム、ジャマアテ・イスラーム書店⁷⁾ (Maktaba-e Jamā'at-e Islām, Dār al-Islām, Pathān-kot)」となっており、1943年から印パ分離までの時期に出版されたものと推測される。同書籍は、JIの活動の変遷を裏付ける重要かつ希少な史料であるといえるだろう。

IV. まとめ

以上に概観したアキール文庫中のマウドゥーディー関連書籍122点の構成は、マウドゥーディーの著作の執筆・出版過程の特質を鑑みても、資料として非常に均衡がとれ、充実した構成であるといえる。先に述べたように、マウドゥーディーの著作の出版過程の特質は、彼が主に月刊『クルアーンの解釈者』に発表した論稿の蓄積の中から、特に重要かつ訴求力が高いと思われる主題に関するものを選び集め、世相や読者からの批評を反映した加筆や修正によって数々の単行本を編集・再編集していったことにあるといえる。また、マウドゥーディーの残したテキストの再編纂・再出版が、現在でもJI系の研究機関や出版社を拠点に行われており、彼の言論の蓄積をひとつの思想的体系として整理しようという努力が続けられている。こうしたマウドゥーディー著作の出版過程の特質をふまえるに、アキール文庫に含まれるマウドゥーディーの主要著作の古い版や、支持者編集による論稿・言論の集成、また、第三者の側から書かれたマウドゥーディーの主張や運動への批評書等は、彼の思想形成やそこにおける社会との相互的影響の過程を読み解くうえで、新たな視点と情報を提供してくれる可能性を秘めているといえる。

参考文献

[和文文献]

大塚和夫ほか(編) 2002 『岩波イスラーム辞典』 岩波書店。

加賀谷寛 1987 「第二次世界大戦期南アジアにおけるイスラーム復興運動の発展—1941年8月25日、26日「ジャマアテ・イスラミー」結成に関する資料—」『両大戦間期における政治と社会』 大阪外国語大学, pp.69-74.

山根聡 2001 「マウドゥーディーと「ダールル・イスラーム」のイスラーム復興運動: 20世紀インド・ムスリム知識人の動態的研究」『アジア太平洋論叢』 11, pp. 167-210.

山根聡 (監修) 篠置理子 (編著) 2013 『マウドゥーディー著作目録と解題 (NIHU Research Series of South Asia and Islam 3)』 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター。

[欧文文献]

Nasr, Seyyed Vali Reza. 1994. *The Vanguard of the Islamic Revolution: The Jama'at-i Islami of Pakistan*. California: University of California Press.

7) 原字まま。「ジャマアテ・イスラーム」はJIのことを指すと思われるが、何故このように表記されたかは不明である。

———. 1996. *Mawdudi and the Making of Islamic Revivalism*. New York: Oxford University Press.

[ウルドゥー語文献]

Hāshimī, Rafī‘ al-Dīn. 1998. “Taṣānīf-e Maudūdī: Ek Ishā‘atī aur Kitābiyātī Muṭāla,” in Hāmidī, Khalīl Aḥmad & Ṣiddīqī, Na‘īm (eds.), *Taṣkira-e Saiyid Maudūdī, Jild Sovim*. Lāhaur: Idārah-e Ma‘ārif-e Islāmī, pp. 617–824.

———. 2006. “Taṣānīf-e Maudūdī ke ‘Ilmī o Qalamī Āṣār: Ek Ajmālī Fihrist-e Kutub,” in Hāshimī, Rafī‘ al-Dīn & Khālīd, Salīm Mazūr (eds.), *Abū al-A‘lā Maudūdī: ‘Ilmī o Fikrī Muṭāl‘a*. Lāhaur: Idārah-e Ma‘ārif-e Islāmī, pp. 593–628.

Maudūdī, S.A.A. 1979 (1941). *Ḥuqūq al-Zaujayn* (17th ed). Lāhaur: Idārah-e Tarjumān al-Qur’ān.

———. 1998. *Islāmī Riyāsat* (19th ed). Lāhaur: Islāmīk Pablīkeshanz.

Rūdād-e Jamā‘at-e Islāmī Avval Davum. 2011. Lāhaur: Islāmīk Pablīkeshanz.

Zubairī, Na‘īm al-Dīn. 1985. *Ishāriya-e Māhnāma Tarjumān al-Qur’ān: 1932 tā 1976*. Karācī: Idārah-e Ma‘ārif-e Islāmī.